

5. 実証研究で得られた成果

本年度は広域外部サポーターとの「効果的な教育実践」を重点に取組みを進めた。熟議を重ねることで学校運営協議会委員、生徒、教員、広域外部サポーターが相互に直に意見交流ができた。その結果、下記の効果が認められた。

1. 「学校運営協議会」の主体性のある活動が実現

○熟議で協議したことが具体化され、学校運営に反映されるようになった。また、生徒・教員・広域外部サポーターが共通のテーマで活動するなど、教育活動に生かされた。

《具体例》

- ・ 学校運営方針の見直し（制服制度について）
- ・ 中高一貫した教育課程の改善（探究活動等）

（学校運営協議会委員の声）

- ・ 制服制度の改善に向け、学校運営協議会が主体的に学校運営に参画できたことや、教育活動について共に責任を負うことができることが成果である。
- ・ 生徒のアイデアが、地元自治体との協働により社会科の授業で実践されたことが大きな収穫である。

（広域外部サポーターの声）

- ・ 生徒は大人と違う着眼点があり、業務の上で参考になることも多い。
- ・ 子どもたちに「地域」のことを考えてもらうきっかけとなっていることがありがたい。

（校長の声）

- ・ 学校運営協議会や広域外部サポーターと共に熟議をする中で、特に地域や企業など、広く一般社会の視点からの意見が教員や生徒に届き、社会に開かれた教育課程を実現する大きな助けになっていることが成果である。



○学校運営協議会が主体的に企画・運営、活動に携わることができるようになった。

《具体例》

- ・ 夏季研修会の企画・運営、先進地域視察会の実施、授業改善に向けた講演会の実施及び講師とCSネットワーク協議会による意見交流のコーディネート、特色ある授業におけるゲストティーチャーとしての参加、熟議におけるファシリテート など。

（学校運営協議会委員の声）

- ・ 先進地域を視察することにより、全国の先進事例を学べたことや、取組みへの情熱を感じることができたことが、今後の取組みに活かせる。
- ・ 大阪代表として、取組みを紹介できたことが成果である。
- ・ 自ら教育活動に参加できたこと自体が今後の学校運営協議会運営にとって大きな成果である。

（教員の声）

- ・ 学校運営協議会委員にファシリテートいただいたことで、社会と一体となった熟議ができたように感じた。

2. 広域外部サポーターとの双方向での協働活動が実現

○学校支援から地域学校協働活動への変革にむけた広域外部サポーターとの連携方法の改善。

《活動の具体例》

- ・ 学校地域連絡会議（コーディネーター会議）の定期的開催（3回/年）
 - * 学校と広域外部サポーターの協働テーマのマッチング（ウィンウィンの関係を構築）

【参加者】

学校運営協議会委員、校長、地域連携担当教職員（連携コーディネーター）、

教職員、地域学校協働本部役員、企業コーディネーター、地域コーディネーター等

- ・ 大阪府知事部局の公民連携デスクとの連絡会議及び企業・学校マッチング会議（広域外部サポーターの声）
- ・ 地元の産業を若い世代に伝えられることは、我々にとって光栄なことである。地味なことだが、小さな努力を重ねていることを知っていただける良い機会を与えられたと感謝している。
- ・ シティセールスとして市内、市外の子どもの市のことを知っていただくことは重要なことである。
- ・ 地域に密着した情報誌として、富田林中学校の取組みを今後も積極的に取材していくことで、読者にとっても興味深い記事の提供することにつながる。

（教員の声）

- ・ 生徒が企業様等と連携した探究活動を通じて、社会の課題に対する興味や関心が高くなっていることや、知識が深まることに感心している。何よりも探究の学びを続けていきたいという生徒の意欲が向上している様子が嬉しい。

《成果の具体例》

- ・ 本校では地域学校協働活動（NPO 学びと育ち南河内ネットワーク）として地域学校協働本部と連携し、専門家の指導を受け探究活動に取り組んでいる。その一環として作品を大阪府学生科学賞に出品し、最優秀賞を受賞した。



研究活動を通じて、多くのことを経験することができました。例えば、ドジョウの研究者にメールで質問をし、新たな知見を得ることができました。今回の受賞を弾みにこれからも研究活動に精進していきたいと思います。



同窓会総会で受賞を報告

3. 活動成果を発表する機会をもち、広く成果を周知

○地域と協働で成果発表する機会を持つことで、地域活性化につなげていく（広域外部サポーターとしての参加団体数の増加）。

- ・ まちと学校のみらいフォーラム（とんこう地域フォーラム）

22 団体（H30）⇒28 団体（R1）予定

【テーマ「地域で取り組むSDGs」～とんこうから始めよう！～】



※写真は昨年度の様子

【成果のまとめ】

本事業を推進するにあたり協議体を設置したが(コミュニティ・スクールネットワーク協議会)、学校をはじめ、地域、保護者、協力企業・団体等とともに、教育行政(学校教育及び社会教育)や知事部局(公民戦略連携デスクなど)、大学等とも連携するなど、産学官民が一体となるモデルを構築できたことは大きな成果であると言える。そして、モデル校の教育目標である「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献するグローバル人材の育成」について、コミュニティ・スクールのしくみを整えることで社会と協働で達成をめざす地盤ができたと考える。

また、学校と地域がウィンウィンの関係の構築に向けて進んだことで、今後広域外部サポーター等の学校教育への参画がより一層期待され、それがお互いの社会貢献活動の促進、さらに地域活性化のきっかけとなっていくものと考えられる。

効果検証の結果としては、以下のとおりである。

《グローバルな視野とコミュニケーション力の育成》

○学校教育自己診断(生徒回答)より

「学校は国際交流、海外研修等を通してグローバルな視野やコミュニケーション力の育成に努めている。」

中学：89.0(H30) → 93.2(R1)

高校：88.1(H30) → 90.5(R1)

○学校教育自己診断(生徒回答)より

「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」

中学：65.6%(H30) → 74.7%(R1)

《論理的思考力と課題発見解決能力》

○学校教育自己診断(生徒回答)より

「探究活動によって、深く考える力、情報を収集する力、発表する力などが身についた。」

中学：80.6(H30) → 82.9(R1)

高校：63.8(H30) → 67.2(R1)

《社会貢献意識と地域愛》

○学校教育自己診断(生徒回答)より

「探究活動において社会や地域の課題について考える機会がある。」

中学：90.3%(R1 新規)

「学校は様々な教育活動(授業・行事・総合学習・部活動等)を通して、社会への貢献意識や将来社会で活躍する力の育成に努めている。」

中学：89.9%(H30) → 91.8%(R1)

高校：88.5%(H30) → 88.6%(R1)

